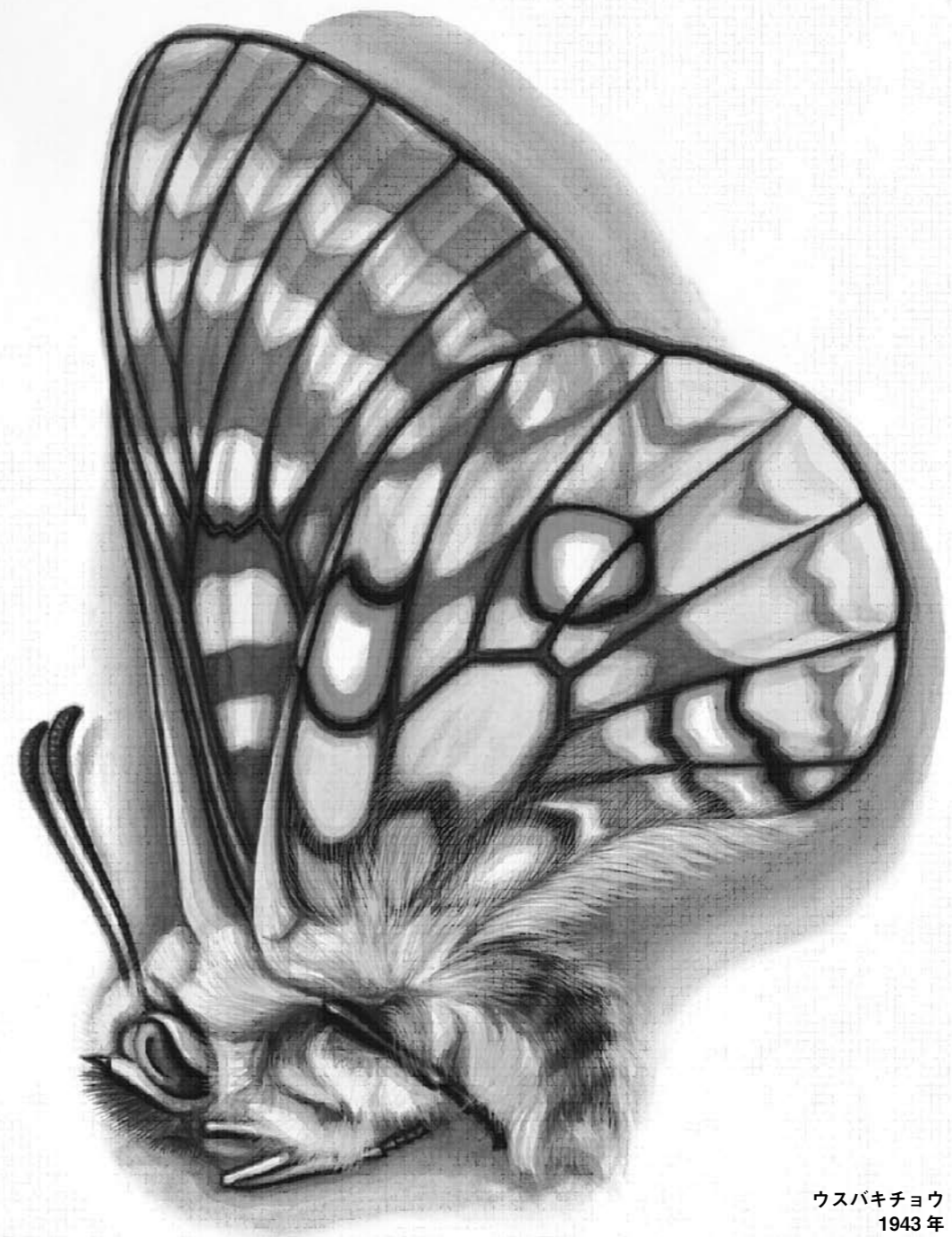


色彩豊かな蝶の世界



ウスバキチョウ
1943年

名誉市民で山岳写真家の田淵行男さんが描いた、未発表の昆虫細密画が新たに発見され、ご家族から市に寄贈されました。色彩豊かな蝶を描いた作品が豊科近代美術館やインターネット上で公開されます。ぜひ、ご覧ください。



田淵 行男 (1905～89)
鳥取県生まれ。1945年、疎開を機に安曇野に移住。北アルプスと安曇野を中心に、高山蝶をはじめとする昆虫の生態研究や、山岳などの自然写真の撮影にその生涯を捧げる。安曇野市名誉市民。

豊 科成相の田淵さんの旧宅から、昨年8月、未発表や著作に使用され所在不明だった高山蝶をはじめとする昆虫や植物を描いた細密画249点が新たに発見されました。4月20日、ご子息の田淵穂高さん(神奈川県座間市)が市役所を訪れ、作品を市へ寄贈されました。

今回、これら寄贈作品を含めた田淵さんの作品を豊科近代美術館で一般公開するとともに、多くの皆さんが広く作品に親しみ、調査研究にも生かされるよう、インターネット上で一般公開しますのでご覧ください。

「田淵行男絵図データベース」
http://www.tabuchi-museum.com/
田淵行男記念館
(TEL) 72・9964 (FAX) 88・2010

解説 科学と芸術の間

図 鑑の数も少なかった少年時代、田淵行男は自らの手で「日本産蝶類図説」を制作しようと生物学の立場で、17歳ごろから蝶の細密画を描き始めました。20代半ばには、一時、制作を中断しますが、40代に蝶の宝庫安曇野に疎開後、研究を続けるうちに、蝶の成長過程(卵・幼虫・さなぎ・成虫)を自らの手で描いた「日本産蝶類図説」のコンプリートブック(大全)の制作を目指すようになりました。しかし、写真版の蝶の図鑑が次々に出版されたため、実現しませんでした。



寄贈の際、父行男さんの当時の様子を話す田淵穂高さん(左から2人目)

や形態に若干の誇張がみられます。田淵自身「私の蝶の絵は、博物学専攻者の立場から、原則として科学の枠組みから、そう勝手にははみ出してはならぬ宿命に縛られていた」と語りながらも、自らの絵を実物の単なる代用品で終わらせてはならないと考え、その制作に取り組みました。そこには「科学と芸術の両立」を目指すという田淵の創作活動の普遍的姿勢が貫かれています。

田淵行男記念館副館長
(学芸主任) 財津達弥



色鮮やかに細部まで描かれたオオルリジミの終令幼虫



クモマベニヒカゲ
1947年

豊科近代美術館開館20周年記念
田淵行男記念館・豊科近代美術館共同企画

科学か、芸術か？ ～田淵行男細密画の全容～

今回発見された細密画を含め、生物学的にも芸術的にも価値の高い、田淵行男さんが描いた代表的な作品約200点を公開し、その全容に迫ります。

企画展 会期 **6月30日(土)～8月5日(日)** 会場 **豊科近代美術館**

■観覧料 大人 500円(400円) 大学生・高校生 300円(200円) 中学生・小学生 無料 田淵行男記念館との2館共通券大人 700円(600円)、大学生・高校生 400円(300円) ()内20人以上の団体

■休館日 月曜日(7月16日を除く)、7月17日 ■開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

関連イベント

ギャラリートーク **6月30日(土)** 午前10時～、午後2時～(各回約40分)

ナイトミュージアム「昆虫標本を作ろう」**7月27日(金)** 午後7時～9時

「昆虫を描いてみよう」**7月28日(土)** 午前9時30分～、午後1時30分～(各回約2時間)

■定員 各回親子20組(先着順) ■対象 小学生以上(保護者同伴) ■参加料 無料(保護者は別途入館料必要) ■持ち物 昆虫(死んだ昆虫可)、虫めがね、ルーペ(7月28日は、鉛筆・絵具などの画材も必要) ■申し込み 6月28日(木) 午前9時より受付開始。電話でお申し込みください。

問い合わせ・申し込み先 豊科近代美術館 (TEL) 73・5638 (FAX) 73・6320